

## 今月のテーマ

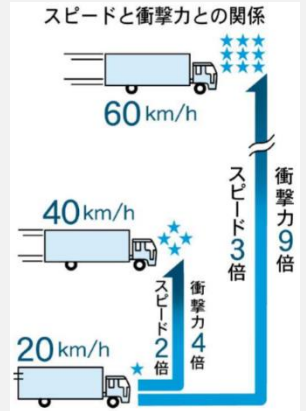
# スピードの特性を知りましょう

「スピード」は、車体重量の重たい事業用自動車には大きな影響を及ぼします。法定速度を遵守し、十分な車間距離を保つことが安全運転に繋がります。

## スピードが運転に与える影響

事業用自動車は、車体重量が重く、重心が高いなどの特徴があることから、スピードの出しすぎによる影響は大きく、衝撃力や遠心力が大きくなります。重大事故の危険性が非常に高くなりますので、スピードが運転に与える影響をよく理解し安全運転に努めましょう。

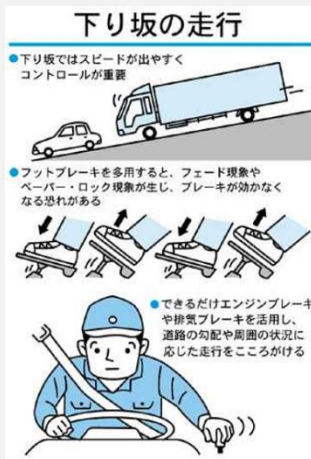
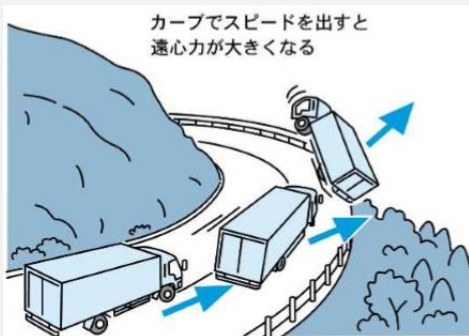
- 衝撃力はスピードに比例して大きくなりますが、車両重量の大きい事業用自動車は、**衝撃力はさらに大きくなり、重大事故につながります。**
- 事業用自動車は、車体重量が重たく、積荷によっては重心が高い場合もあり、**カーブでは遠心力が強く働くこととなり、横転などの危険性が高い**といえます。
- **制動距離**はスピードに比例して**長くなり、追突の危険性が高くなります。**
- **雨天時には、ハンドルもブレーキも効かない**ハイドロプレーニング現象などを生じるため、危険性がさらに増します。



## スピードをコントロールした運転

スピードの出しすぎは、重大事故の危険性が非常に高くなることから、法定速度を遵守し、安全な速度と車間距離を保つことが必要です。

- 安全な運行のためには、道路交通法に定められている**最高速度の遵守**が基本です。
- スピードのしやすい**下り坂ではブレーキ操作などに注意**し、また、スピードの低下しやすい**上り坂ではスピードメーターをチェック**するなど、スピードをコントロールすることが必要です。
- 状況に応じた**安全な速度、十分な車間距離を保つ**ことが重要です。
- 荷物を積載した状態で下り坂を走行すると、通常よりもスピードが速くなるため、減速しようとする通常より大きなブレーキ力が必要になります。停止するために**フットブレーキを使い過ぎると、ブレーキライニングが過熱しブレーキが効かなくなる危険性があるため、エンジンブレーキを併用**する等の適切な運転操作の必要性があります。
- 上り坂においてはスピードが低下しがちであるため、後続車がいる場合は、**道を譲る、登坂車線がある道路では登坂車線を利用**することも必要です。



### 安全な速度と車間距離

速度60km/h以下の場合、走行速度の数字から15を引いた距離

例 速度60km/hの場合：60-15=45m

速度60km/hを超える場合は、走行速度の数字と同じ距離

例 速度80km/hの場合=80m  
速度100km/hの場合=100m

速度計の数字と同じ距離を保つ

国土交通省HPより

### 発行者

上杉行政書士事務所 代表 上杉 麻美  
神奈川県横浜市旭区左近山16-1 1-30-806  
TEL&FAX 045-442-3592

行政書士法人シグマ 代表社員 阪本 浩毅  
東京都中央区銀座一丁目13番1号  
ヒューリック銀座一丁目ビル4階  
TEL 03-6868-7256 FAX 03-6800-3604

ご用命・ご相談がございましたらお気軽にお問合せ下さい

一般社団法人 運輸安全総研トラバス  
Mail tb@trubus.org ホームページ <http://trubus.org/>

